

令和 4 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。
評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 常 陽 中 学 校

令和4年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

「各校の重点取組について」

- ① 生徒が主体的に学ぶ授業づくりに努める。 ② 規範意識の醸成と授業規律の遵守に努める。
- ③ 家庭学習の充実・自学自習の習慣づけに努める。 ④ 生徒会活動等の充実による、リーダー育成に努める。

学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む (1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.5	3
取組	成果	課題と改善策	
・「授業デザイン 3つの視点」の重点取り組み校の指定を受け、全教員がデザインシートを作成するとともに、相互に授業を参観し、意見交換を行うなど、授業改善に努めた。 ・特別支援コーディネーターを中心に特別支援委員会を月に1回実施し、生徒の情報交換を行うとともに、支援方法を検討した。 ・保健・家庭科の授業を通して生活習慣病の知識を深め、望ましい生活習慣を育成した。 ・保健体育科の授業に毎時間持久走・リズムジャンプを導入し、体力の向上に取り組んだ。 ・ICTを積極的に活用した授業を行うことで、情報活用能力の育成を図った。	・全教員がデザインシートを作成し、共有することにより、自身の授業を見直し、授業力の向上につなげることができた。 ・生徒一人一人を大切にしたいきめ細やかな指導を行うことができた。 ・新体力テストの結果から、昨年度より持久力が向上した。	・「授業デザイン 3つの視点」にさらに積極的に取り組むとともに、ステップアップ調査の結果を多角的に分析することにより、教員の指導方法を改善し、授業力の向上をさらに図る必要がある。 ・運動する生徒としない生徒の二極化が進んでいる現状を踏まえ、保健体育科の授業や部活動、そして、体育的行事を通して、運動習慣を身に付ける必要がある。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかわりつくり努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める			3.5	3
取組	成果	課題と改善策		
・「あいさつ尼崎一」を目標に掲げ、登下校・授業・朝学活・終学活などでのあいさつの徹底に取り組んだ。また、「時を守り・場を清め・礼を正す」を生徒努力目標とし、生徒の意識を高め、礼節を身に着けた集団を目指した。 ・毎学期、教育相談を実施し、生徒の内面の理解に努めるとともに、教員で情報交換を丁寧に行い、いじめに対する態度の向上に取り組んだ。 ・毎学期、アセスの調査を行い、誰もが過ごしやすい学校の環境づくりに努めた。 ・職業選択や、進路選択について、講師を招聘し講演会を行った。	・自ら進んで、心のこもったあいさつを交わせる生徒が増えた。 ・始業3分前に着席をして授業に備えるなど生徒努力目標を意識した生活習慣が身についた。 ・日々の清掃活動はもちろんのこと、自主的に清掃に取り組む生徒が増えた。 ・常に丁寧な指導を心がけ、生徒の内面に寄り添い、いじめの早期発見・早期対応につなげることができた。 ・アセスの分析結果を、学校全体で情報を共有するとともに、対応を協議し、誰もが過ごしやすい環境づくりを進めることができた。	・教員から積極的にあいさつの声かけを行うなど、さらに生徒との信頼関係を構築することが必要である。 ・清掃などにおいても生徒と共に汗を流す活動に取り組む必要がある。 ・いじめに対する教員の態度をさらに向上させるとともに、組織的に対応する体制をさらに強化する必要がある。 ・1年生での職業体験の講演会、2年生でのトライやるウィーク、3年での進路選択と3年間を見据えた指導体制をさらに強化する必要がある。 ・生徒ともに夢を語り合うなど、生徒に寄り添った教育活動が必要である。		

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める			4	4
取組	成果	課題と改善策		
・研究推進委員会の活性化を図るために、積極的に指導主事の指導助言を仰いだ。 ・全教員が「総務チーム」「学力向上チーム」「小中連携チーム」のいずれかのチームに所属し、研究に取り組んだ。 ・定時退勤日を週に2日間設定し、業務改善に取り組んだ。 ・全校生徒により、年間2回「ふれあい清掃」に取り組んだ。 ・武庫川のコスモス園の種まきに生徒会執行部や有志の生徒が参加するなど地域貢献に取り組んだ。	・指導主事の指導助言のもと、1・2年生のステップアップ調査や3年生の学力調査の結果を有効に活用し、生徒の実態を分析するとともに、教員の指導法を振り返り、改善につなげることができた。 ・教員の業務改善への意識を改革することができた。 ・地域の方に支えられるだけでなく、生徒の積極的に地域貢献する気運が高まってきた。	・生徒にとって魅力ある授業づくりに、さらに取り組む必要がある。 ・定時退勤日の完全実施率100%を実現することが必要である。 ・ICTの活用などに関して、小中の連携をさらに深める必要がある。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る			4	4
取組	成果	課題と改善策		
・AEDの使用法や心肺蘇生法などの救急救命講習を保健体育科の授業を通して2年生全員に指導した。 ・登下校の安全確保のため、定期的に生徒の登校状況を把握し、朝礼等を利用して生徒への注意喚起に取り組んだ。 ・自然災害を想定し、避難訓練に取り組んだ。	・生徒の救急救命に関する意識を高めることができた。また、基本的な技能も身に着けることができた。 ・阪神淡路大震災で被災した教員からの講話により、自然災害を身近なものと認識し、危機管理に対する意識を高めることができた。	・予告なしの避難訓練など、実施方法の工夫が必要である。 ・生徒会活動の一環として、生徒会が中心になって、生徒自らが、自身の安全を確保するための自主的な取り組みや安全に対する意識のさらなる向上が必要である。 ・教員の救急救命講習、シュミレーション研修を毎年定期的実施する必要がある。		

教育目標			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
			4	3.5
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実				
取組	成果	課題と改善策		
・全教員が授業を公開し、互いに授業を参観するなど、授業改善に積極的に取り組んだ。 ・生徒の特性に応じたきめ細やかな指導により、規範意識のさらなる向上に取り組んだ。 ・全教員で授業規律について、共通理解を図り実行した。 ・自主学習ノートを活用し、家庭学習の充実と自学自習の習慣化に取り組んだ。 ・長期休業中の課題や日々の授業の課題などの提出に重点的に取り組んだ。 ・定期テストの間違い直しや授業の振り返りに積極的に取り組んだ。	・主体的に学ぼうとする姿勢が身についた生徒が増えてきた。 ・規範意識の醸成と授業規律の遵守により、落ち着いた学習環境を整えることができた。 ・自ら進んで課題が提出できる生徒が増えた。 ・意欲的に自主学習ノートに取り組むことのできる生徒が増えた。	・「授業改善 3つの視点」を意識した授業改善に全教員がこれまで以上に積極的に取り組む必要がある。 ・自主学習ノートの取り組みだけでなく、家庭学習の充実と習慣化につなげる手立てが必要である。		

研究テーマ			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
			4	3.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実				
取組	成果	課題と改善策		
・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に全教員で取り組んだ。 ・発達に特性が見られる生徒に対して、巡回訪問等で専門家からのアドバイスを受けた。	・生徒の学習活動が活発に、そして、積極的に変容した。 ・専門家からのアドバイスを全教員で共有することにより、生徒理解が深まり、適切な指導を行うことができた。	・生徒一人一人の特性に応じた、きめ細やかな指導をさらに心がけることが必要である。 ・巡回相談等の回数を増やすなど、定期的に専門家からの指導助言をいただく必要がある。		